

「瀬戸市都市計画マスタープラン（案）について」

1. 瀬戸市北松山町 2-118
2. 竹内 春雄
3. 意見

- ①. 第1章 計画の位置づけの後段に述べられている「課題や地域構想」になりますと、前回の都市計画マスタープランの表現と取り組み方に変化が見られないような気がします。

後段には、「未来の市民生活に欠かすことのできない公共サービスを継続させるためにも、公共施設や道路、公園、水道、下水道などの経営資産として捉え、新しい取り組みを行なうことにも考慮しなければなりません。

時代の転換期を迎えた今、都市を取り巻く現況の変化を的確に捉え、住みたいまち、誇れるまち、新しいせとを実現するために、都市づくりの方針である都市計画マスタープランを見直すものです。

であれば具体的に、ポイント的にこの辺（課題・問題点）が大きく議論をしたのか、また調査などして前とこの点が違いがあるかをお聞かせ下さい。

- ②基本計画・「拠点形成と交通体系の方針」について、前段部分の記述が不十分でないでしょうか。交通網の整備は、自分の家から目的地へ乗り替えが少なく行けることが大切だと思っています。

周辺の市町では、例えばコミュニティバスについていえば、尾張旭市は26人乗りをしていますし、日進市では30人乗り以上のバスで、早朝から午後8時まで運行しています。利用者は、8万人の市の人口を大きく超えて50万人が利用しています。足掛け22年目を迎え、日頃から行政と市民が協働ですすめてきた成果です。瀬戸市は、連携計画を策定して取り組んでいます。平成21年度から5年間の計画を延長してきていますが、これといって大きな変更もなく運行事業が思考停止状態であるといっても言い過ぎでないと思います。地域公共交通網形成計画の理念がどこにあるか考えていただきたいです。

- ③. 中心拠点「尾張瀬戸周辺」——「商業施設や文化施設など多く立地し、利便性が高く、居住地としての優位性が高い地域です。住まいやアトリエ、ギャラリー、飲食店等として既存建物の利活用を進めるなど、観光の玄関口及び新しい魅力を創造する拠点として、都市機能の充実を図ります。また、既存施設のリノベーションなどにより、まちに新たな魅力を創出します」と記述がされています。

私もこの指摘は、共感できますし実現することを願っています。一つ残念なことは、道泉小学校をこの地域から小中一貫校により廃校になることです。居住地としての優位性が高い地域と評価しながらおかしいと思います。

また、国土交通省の「都市計画運用指針」でも、近隣住区の語を使っています。道泉連区の人口は、四千百人（27年）と近隣住区が想定している人口五千人から六千人と少ないです。この範囲内にコミュニティを支える小学校、コミュニティセンター、公園などを置くことにしています。これは一般的な団地開発の構想ですが、道泉連区は、瀬戸市の中心拠点ですので人口が相対的に減少する中で、この地域が居住地としての優位性が高い地域という以上、チャレンジ精神で施策の検討を開始して下さい。絶対に小学校をこの地域からなくすことはやめていただきたい。

- ④. 第2章 都市づくりの現状の課題・課題5「自動車と公共交通等を『かしこく』使い分ける交通行動の転換について、瀬戸市の公共交通の現状を見ると停留所が近くにあっても本数がない、もっとひどいのは自分の目的に行けない停留所があるだけで公共カバー率が90%以上だと説明されています。

こんなカバー率は、市民には理解できないものを一貫して文書にするのはいかなものかと思います。目的地に1回乗り換えれば行けるような路線があり、停留所があれば自動車を避けて公共機関に変えます。これが『かしこい』使い分けでないでしょうか。

例えば名古屋市は、市バス路線の設定基準を500mでバス停に到着できること、バス路線の間隔は概ね1キロメートルとしています。こうした路線と停留所であればカバー率として認められると思います。なお、巡回バスとして概ね300メートルに停留所を設けています。区によっては、1コースと2コースがあります。

- ⑤. 都市施設の方針・(2) 公共交通「生活交通」について抜本的な検討を願います。

記述は、「コミュニティバスについては、居住地から拠点周辺の生活利便施設へのアクセスを確保し、地域特性に応じた運行形態、効率的な運行のあり方を検討しますと述べています。

先の連携計画と比べると後段部分は、含みをもった内容になっていますが、瀬戸市のコミュニティバスへの優先順位の低さからも対応に期待ができないと思います。先回実施されたアンケート調査の結果を見ても、日進市や長久手市が取り組んでいる内容と大きな隔たりがありました。また、住民や利用者が参加する集会などほとんど行なわれていません。昨年の夏にワークショップをされたのが1回だけでした。

- ⑥. 第3章 全体構想・下水道の整備推進、污水处理人口普及率向上について以下のよう
- に述べられています。河川環境の保全と生活環境の向上を図るため、順次事業計画区域を見直しながら下水道整備を推進します。また、污水处理人口普及率の向上に向け、地域特性を考慮した整備手法を検討します。

具体的には、瀬戸市公共下水道事業基本計画になりますが、同じ市街地の中で中央地域の汚水処理人口普及率は51%です。水野地域91%、幡山地域75%とで、この遅れについて地域特性を考慮した検討を瀬戸市公共下水道事業基本計画に、インパクトを与える表現に検討をお願いします。

- ⑦.まちづくり方針（中央地域）都市施設・道路について以下のように述べられています。名鉄瀬戸線踏切への交通集中を軽減し、新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺の南北方向の円滑な移動を確保するため、名鉄瀬戸線と鹿乗共栄線や第3環状線等の交差について鉄道事業者や関係機関と計画の見直しを進めると述べられています。

確かに、そう簡単にすすめない事業ですので、いろんなケースを想定して検討をされたとは思えません。少し変化が出てきたのは、第3環状線（県道）等の交差について視野があることが分かりました。時期を決めて検討をされるのか伺います。